



がん検診

佐藤 一郎



問 コロナ禍で、がん検診が難しくなっている。がんは早期発見、早期治療が重要であるが、がん検診の受診率向上をどのように考えているのか伺う。

健康増進課長 がんは初期の頃は全く無症状ということから、検診して早期発見することが非常に有効と考えます。特定健診の受診者に対してがん検診クーポン券の配布や、子宮頸がん、乳がん検診初年度対象の方は無料で実施しています。

今後新型コロナウイルス感染症の影響によって昨年度に実施できなかった未受診者の検診を行ったり、未受診者に対する受診勧奨等に力を入れていきたいと考えます。

問 令和2年4月から人間ドック受診費用の一部助成が実施された。40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の令和2年度および令和3年度の受診状況を伺う。

健康増進課長 令和2年度は、40歳、45歳が0件、50歳が2件、55歳が3件、60歳が6件、65歳が6件、70歳が8件で、合計25名に助

成を行いました。令和3年度は11月現在で40歳が4件、45歳が2件、50歳が3件、55歳が2件、60歳が6件、65歳が17件、70歳が26件で、合計60名の方に助成しています。

人間ドック助成の周知を

問 人間ドック受診費用の一部助成は市独自の施策であり改めて市民に周知すべきではないか。

健康増進課長 これまでも毎年全世帯に配布する健診の申込案内に掲載したり、広報やFM、ホームページにより周知しています。利用促進されるよう、一層の周知を図ります。

問 岩沼市は健康先進都市を目指しており、多くの市民が健診するようお願いしたいと思います。

市長 人間ドックの受診率を上げていくようPR、口コミでも広がるよう折あることに進めていきたいと思えます。

◎その他の一般質問

- ・三春町及び一関市との交流
- ・原遺跡発掘調査



各種施策と岩沼のかたち

佐藤 淳一



問 人口減を（市が）想定している中、公共施設の総量をどう考えているのか伺う。

総務部長 人口減少を見据えるならば、総量が適切かも含めて、整理する必要があると考えています。

問 公共施設管理を民間へ委託した成果を伺う。

政策企画課長 経費の削減だけでなく、サービス内容が向上したという声が寄せられています。

問 他自治体の同じような施設と比較して使用料が安いために、市外在住者の利用が多く、市民が予約を取れない状況もある。そういったところも含めて、公共施設の料金を（今後）どのように考えていくのか伺う。

市長 人口減少で税収減が危惧されており、もう少し負担を求めているかなければならないという考え方はあります。

問 公共施設の老朽化への対応を伺う。

政策企画課長 公共施設保全計画に基づき長寿寿命化計画を策定して、公共施設の長寿寿命化に要する財政

負担の平準化を図っていきます。

市役所の建替え必要では

問 建設から50年が経過し、配管の老朽化により雨漏り状態になっているような市役所では、業務や市民サービスの低下も考えられる。（人口減想定で）過剰な施設の縮減は必要だが、必要性の高い誰もが利用する市役所のような公共施設は建て替えを検討するなど、メリハリも必要ではないかと考えるがどうか伺う。

市長 市役所庁舎はかなり老朽化しています。現状の（退庁時に職員が配管漏れで書類やパソコンが濡れないようにビニールをかける）市役所ではよくないと思えますので、コストをかけず、職務に支障が出ない程度まで補修をする必要があります。庁舎を今後どうするか検討することは絶対必要であり、準備をするべき時に来ています。改築あるいは新築などを検討していきたいと思えます。